

教育委員の活動を紹介します

教育委員の平成30年1月から4月までの活動は下表の通りです。またその他に入学式・卒業式、道徳授業地区公開講座、研究発表会、各種研修会などへ参加しています。

活動実績(平成30年1月～4月)

| | |
|-------|----------------------------|
| 1月8日 | 成人を祝うつどい |
| 1月11日 | 第1回教育委員会定例会 |
| | 第3回立川市総合教育会議 |
| 1月17日 | 立川市および教育委員会合同研修 |
| 1月25日 | 学校訪問(第一小学校) |
| | 第2回教育委員会定例会 第1回教育委員会研修 |
| 2月2日 | 東京都市町村教育委員会連合会研修会 |
| 2月8日 | 第3回教育委員会定例会 |
| 2月15日 | 学校訪問(西砂小学校) |
| 2月17日 | 立川教育フォーラム |
| 2月22日 | 第4回教育委員会定例会 |
| | 第2回教育委員会研修 |
| 3月1日 | 立川市学校保健会 健康努力児童・生徒表彰式 |
| 3月3日 | けやき台小学校閉校式 |
| 3月8日 | 学校訪問(第十小学校) 第5回教育委員会定例会 |
| 3月10日 | 若葉小学校閉校式 |
| 3月23日 | 第6回教育委員会定例会 |
| 4月2日 | 教員辞令伝達式 |
| 4月6日 | 若葉台小学校開校式 |
| 4月12日 | 第7回教育委員会定例会 |
| | まつのみ学級視察 |
| 4月18日 | 立川市立小学校教育研究会総会 |
| 4月20日 | 平成30年度教育施策連絡協議会 |
| 4月26日 | 第8回教育委員会定例会 |

国文学研究資料館からのお知らせ

江戸時代以前の書物を見てみよう!

「新日本古典籍総合データベース」の紹介

江戸時代以前の書物のことを古典籍といいます。昔の物語や歴史書だけでなく医学や天文など様々なジャンルの古典籍が沢山残されています。たとえば梅雨時に欠かせない「傘」に関する古典籍には、どんなものがあるか、新日本古典籍総合データベースを使った探し方をご紹介します。

トップページの「画像タグから探す」を選択し、検索窓に「傘」と入力。検索ボタンをクリックすると一覧が表示されるので、「サムネイル表示」を押し、表示を切り替えます。すると、「傘」のタグが付いている古典籍の縮小画像が並んで表示されます。

右図はその中から『彩画職人部類』を選びました。昔の傘を作っている職人の絵が描かれていて、左側の文字には、文禄3(1594)年(豊臣秀吉の時代)堺の商人助左衛門がフィリピンのルソンから持ち帰ったのがこの傘の始まりとあります。

こんな風の本を探することで、興味のある本と出逢えるかもしれませんね。無料で誰でも利用可能です。お楽しみください。

くわしくはホームページ(<http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/>)をご覧ください。



DOI: <https://doi.org/10.20730/200018387>

■新日本古典籍総合データベース

<https://kotenseki.nijl.ac.jp/>
国文学研究資料館(緑町10-3)が作成・公開し、年々データを追加しています(右2次元コードからアクセス可)。



■利用方法等

<https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/images/kotensekiDB-pamphlet.pdf>

パンフレットをご覧ください(右2次元コードからアクセス可)。



立川市の歴史と文化財

36

五日市鉄道・武蔵上ノ原駅



「武蔵上ノ原駅跡」土が盛り上がっている場所が、ホームの痕跡と思われます。

ここ数年、鉄道路線が廃止になるたびに、廃止前に鉄道ファンが詰めかけて大混雑することは、ニュース番組でもよく取り上げられています。廃線という利用客の少ない地方のローカル線のイメージが強いかもしれませんが、かつてここ立川でも廃線になった旅客線があるのをご存知ですか?

大正14年(1925)に五日市鉄道の拝島(五日市(現武蔵五日市)間が開通しました。五日市鉄道は拝島経由ではなく、直接立川に乗り入れたかったのですが、鉄道省の指導もあり拝島駅から青梅鉄道(現JR青梅線)を経由して、立川駅に乗り入れることになりました。勝峰山は五日市駅北方にある石灰石産出地で、浅野セメント(現太平洋セメント)が大株主とする五日市鉄道は、この石灰石を都心に運ぶことを主目的として設立されています。

昭和4年(1929)には南武鉄道(現JR南武線)の分倍河原(立川)間が開通して、川崎まで結ばれました。南武鉄道は、もともと多摩川の砂利を輸送することを主目的として設立されましたが、途中から浅野セメントが資本参加するとともに、大正6年操業開始の浅野セメント川崎工場へ、青梅・五日市鉄道沿線産出の石灰石を輸送することが大きな目的に変わっていききました。翌昭和5年7月には、五日市鉄道の立川延

長線が開通し、青梅線の南側を迂回して立川と拝島を結びました。立川駅には中央線との平面交差を避けるために、中央線を跨いで、南側の南武線のホームに乗り入れました。途中に8駅設けられ、市内富士見町に武蔵上ノ原駅ができました。昭和6年には武蔵上ノ原駅から分岐して西立川駅を結ぶ貨物線が南武鉄道によって開業しました。この貨物線の関係もあり、立川(武蔵上ノ原)間は五日市・南武鉄道の共有区間でした。この南武・五日市鉄道における交通の一大拠点となったのです。それまでは北口しかありませんでしたが、昭和5年3月に新たに南口が開設されました。

五日市鉄道は五鉄とも呼ばれ、旅客輸送にはガソリンカー、貨物輸送は蒸気機関車を使用していました。昭和15年に南武鉄道と合併して、南武鉄道五日市線となりました。昭和19年4月には青梅電気鉄道(昭和4年青梅鉄道より改称)とともに国有化され、鉄道省の五日市線になりました。同年10月には不要不急線として、青梅線に並行している五日市線の立川(拝島)間は休止(実質廃止)になり、わずか15年での歴史に幕を閉じたのでした。

現在中央線から青梅線に乗り入れる下り列車は、中央線の南側をしばらく並行して走り、中央線乗り越えて西立川駅の手前で青梅線に合流しています。この路線は、五日市鉄道と南武鉄道が造った路線で、廃止を免れた区間です。武蔵上ノ原駅は上野原踏切の立川寄りになりました。現在では旧武蔵上ノ原駅付近を除き、鉄道遺構等はほとんど残っていません。旧武蔵上ノ原駅から先、拝島までの区間の多くは道路に転換され、廃線跡をたどって歩くことができます。武蔵上ノ原(郷地間)は「立川南通り」となり、昭島市内となる郷地(拝島)間は、一部を除き「五鉄通り」となっています。